

富士・東部地域には織物の新しい息吹がある

NHKエグゼクティブアナウンサー 国井雅比古さん



大正10(1921)年に建てられた甲斐絹問屋を公開している都留市商家資料館。偶然「職場体験」の授業で来ていた中学生たちは、国井さんの母校 都留第一中学校の後輩でした。



富士吉田市のランドマーク「金鳥居」の前で。

縮小傾向にあります。しかし、その中であつても、代々受け継がれてきた高い技術力を生かして、この産地でしかできない製品を作つて頑張つている会社が複数存在します。国井さんは、その一社で富士吉田市にある「オサカベ」を訪ね、社長の刑部(おさかべ)さんに話を聞きました。

化するには、もっと世の中に認知される必要があります。国井「産地のブランド力の向上が、喫緊の課題というわけですね」



富士吉田市の機屋を訪問。高速で生地を織る織機に興味津津。

織物による地域活性化に期待

続いて訪れたのは、山梨産地で作られた織物製品が一堂に展示・販売されている山梨県郡内地域産物振興センター。国井さんは展示されていた「甲斐絹座」のシルクのネクタイを取り、「織り方がきめ細やかで、色合いも美しい」と品質の高さに感心していました。



山梨産地ではネクタイをはじめ、ストール・マフラー、傘、座布団・クッション、服地など多様な製品が生産されています。



産地の現状に触れて、「織物の新しい息吹を感じた」と言っています。

富士 富士・東部地域は、全国でも有数の織物産地です。その歴史は古く、江戸時代から昭和初期にかけて「甲斐絹」の産地として発展。その高い技術は、現在まで脈々と受け継がれています。都留市で生まれ育った国井さんが、故郷の地場産業についての理解を深めようと、都留市と富士吉田市を訪ねました。

プロフィール
1949年都留市生まれ。中学時代まで同市で過ごす。東京大学文学部卒業後、73年NHK入局。これまでの主な担当番組は「プロジェクトX」挑戦者たち、「日曜美術館」「食卓の王様」など。現在は「小さな旅」などに出演。講演会講師やイベントの司会・コーディネーターとしても活躍中。

織機の音を聞きながら育った子ども時代

都留市の谷村は、かつて富士・東部地域の織物産業(以下、「山梨産地」という。)の中心地として栄えました。そのころの面影が残る都留市商家資料館を訪ねた国井さん。「衣料品を扱う実家にも、遠くの方から、カシヤン、カシヤン」という機織りの音が聞こえてきました。それが心地良くてね。夜は子守歌代わり

に聞きながら眠ったものです」と幼少期を振り返ります。その後、中学卒業とともに故郷を離れて上京。たまに帰省しても、かつてのような機織りの音は徐々に聞こえなくなり、一抹の寂しさを感じていたそうです。

喫緊の課題は産地の知名度向上

近年、中国をはじめとした海外の安価な生産地の台頭などにより、山梨産地の規模は

「厳しい状況にあつても、自分たちの技術に誇りを持ち、頑張っている人たちがいるんですね。これからも、この地でしかできない優れた織物を作り、どんどん販路を広げて産地をアピールして欲しい。それによって織物の技術が次の世代へと受け継がれ、地域が活性化することを期待しています」

ウェブサイト「甲斐絹ミュージアム」
伝統の甲斐絹について、詳しく紹介しています。



甲斐絹ミュージアム 検索

※甲斐絹…主に羽織の裏地に用いられる高級絹織物として、江戸～昭和初期に一世を風靡した。江戸時代中頃の里歌に「甲州みやげになにもらうたノ郡内しま絹、ほしぶどう」とあり、ブドウとならぶ名物だったことがうかがえる。薄手の生地と独特の光沢、さらっとした風合いが特徴。

「インターテキスタイル 上海2010」に出展



会場となった上海新国際博覧センター



多彩な製品が展示されたブース

今や中国は、織物の世界最大のマーケットに成長しています。山梨産地は中国での販路開拓を目指し、アジア最大規模の繊維・衣料の見本市「インターテキスタイル上海」に3年前から出展しています。

3回目の挑戦となる今回（10月19～22日開催）も、若手後継者たちが出展しました。

ブースでは、産地の特徴や高い技術を生かしデザインした製品を展示し、その魅力をアピールしました。



多数の来場者が訪れ、具体的な商談に至るケースもありました。

「富士山」のように世界に知られる産地を目指す

県の中でも織物産業が最も盛んなのが富士吉田市です。

では、服地部門、インテリア部門、雑貨部門それぞれの国

ふじやま織

問い合わせ先
富士吉田織物協同組合
TEL 0555-22-2164
ふじやま織 検索

富士吉田織物協同組合理事長の勝俣明美さん

富士山麓の湧水など、恵まれた自然環境の中で発展してきました。現在は、甲斐絹の伝統に培われた高い技術力を生かして、服地からインテリアまで、高品質で多種多様な製品を生産しています。

内最大規模の展示会や海外の見本市にふじやま織のブランドで毎年出展しています。「富士山のように、世界に知られるブランドを目指したい」と話すのは、富士吉田織物協同組合理事長の勝俣明美さん。「ふじやま織を掲げることで、名前に引かれてブリスに立ち寄ってくださる方が多い」と言います。出展を重ねることで、ふじやま織の名は着実に浸透しているようです。



高い技術力を生かして多種多様な製品が生産されています。郡内地域地場産業振興センターや道の駅 富士吉田で展示・販売しています。

独自ブランドで山梨産地（富士・東部地域）の織物産業を世界に発信

山梨産地では、かつて二世を風靡した「甲斐絹」の生産で培われた高い技術力を生かし、ネクタイやインテリア、婦人服など、高品質でバラエティーに富んだ製品を生み出しています。近年は有名ブランドのOEM（相手先ブランドによる生産）だけでなく、独自のブランドでオリジナル製品を開発することにより、産地の知名度向上と販路拡大にも力を入れています。

魅力ある製品を生み出す提案型産地を目指して

全国の織物産地の中で、山梨産地は織物製品の種類の多さでは日本一を誇ります。産地の特徴は「先染め・細番手・高密度」。きめの細かい生地作りや高級な色合いの柄を得意としており、その高度な技

術力を生かして、ネクタイ、婦人服、裏地、傘、カーテン、クッション・座布団、スカーフ・ストール、雑貨など多様な製品を生産。中でもネクタイ地の生産量は、国産品の4割を占め日本一です。これまでは国内外の有名ブランドのOEMが中心でしたが、近年は、各地の織物協同

組合や複数の企業が共同で独自のブランドを立ち上げ、自ら製品を開発し販路を開拓する動きが活発になっていきました。こうした動きを受けて、県では、国内外での販路拡大を支援するとともに、富士工業技術センターを通じて新技術やデザインの開発、品質検査などの技術的な支援を行います。山梨産地を守り立てています。

山梨産地の織物の特徴

- 先染め…先に糸を染めてから織る方法。後染めにはない、深みのある豊かな色合いが表現できる。
- 細番手…絹をはじめとする、太さが髪の毛の1/3程度の極細糸を使い、織細な生地を織り上げる。
- 高密度…極細糸を1ミリに10本程度の高密度に織ることによって、ネクタイ地に代表されるきめの細かい生地を作る。



ネクタイの他、ハンカチ、カードケース、フッショソなどのアイテムがそろっています。

「勝ち虫」トンボをモチーフにした「男のための織物」
 黒やグレーの地にトンボが表現された「阿吽蜻蛉」の製品。山梨産地のメーカー6社の協業によって誕生しました。

あうん とんぼ
阿吽蜻蛉 A UN TONNBO
 阿吽蜻蛉のメンバーの舟久保勝さん

問い合わせ先
 財団法人山梨県部内地域
 地場産業振興センター
 TEL 0555-24-4406

阿吽蜻蛉



甲斐絹座の製品は、鮮やかな色彩の玉虫甲斐絹が特徴。見る角度によって色の変化を楽しめます。

「甲斐絹」を復活
 現代の技術で
 県産繭を使い
 伝統的な商品へ昇華させようと、織物職人たちが結成したのが「甲斐絹座」です。

か い き ざ
甲斐絹座 KAIKI ZA

問い合わせ先
 甲斐絹座
 TEL 0555-23-2280

甲斐絹座

甲斐絹座社長の
 前田市郎さん

「阿吽」は万物の本初と終極を表し、「蜻蛉」は「勝ち虫」と呼ばれて古来、武士が好んで使用した紋様とされ、「男のための織物」をコンセプトに現代社会で生きる男性をターゲットとして考案されました。メンバーの一人、舟久保勝さんは「昨年6月、父の日に合わせて都内のデパートで販売し、大変好評を得ました」と手応えを感じているようです。

今後は、さらに品目やカラーバリエーションを増やし、より多くの人に選ばれらるブランドを目指します。



「山梨産地は、甲斐絹を作ってきた歴史と伝統技術の蓄積の上に成り立っています。その原点に戻り、山梨のアイデンティティーにあふれた製品を作ろうと考えました」と話すのは、甲斐絹座社長の前田市郎さん。原料にもこだわり、山梨産の繭を使用しています。

甲斐絹には、さまざまな種類がありますが、最初に製品化したのが「玉虫甲斐絹」です。異なる色の経糸と緯糸を組み合わせることにより、光や見る角度によって色合いが美しく変化します。

今後は、EUをはじめとした海外展開にも積極的に取り組んでいく予定です。



都内のデパートでも販売が開始されたシルクスカーフ「マユ・カブセル」。あえてシワを出すことで、玉虫甲斐絹の光沢を際立たせています。

高いクオリティーの生地を提案しています。



「フジファソネ」です。メンバーは、ヨーロッパの有名ブランド向けに、最高級の生地を企画開発し、販路開拓に取り組んでいるのが「フジファソネ」です。メンバーは、

フジファソネ Fuji Façonné

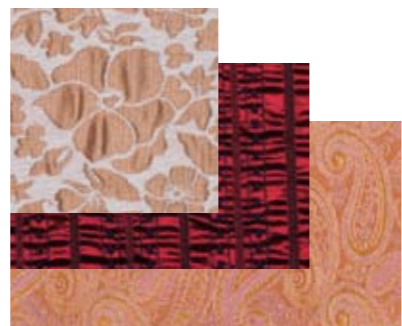
問い合わせ先
 富士吉田商工会議所
 TEL 0555-24-7111

フジファソネのメンバーの高山誠さん

産地特性を生かした高級服地を、欧州の一流ブランドに提案

商社や機屋などで構成された5社。メンバーの高山誠さんはフジファソネの強みについて、「オーガニックコットンや特殊加工など、それぞれ異なる強みを持った企業が、共同ブランドを立ち上げることで、幅広いニーズに対応することができると話します。

平成21年度からはフランスやイタリアで独自の展示会を開いて販路を開拓。現地の有名ブランドに採用されるなど、成果を上げています。さらに今年度は、初めて中国でも展示会を開催しました。引き続き、世界に向けて販路拡大を図っていきます。



「ファソネ」は「柄のある織物」の意味。特殊な素材や加工技術などを駆使し、常にインパクトのある生地を開発・提案しています。

「織物の町」をアピール
 西桂町の若手職人たちが切磋琢磨して

西桂町は、富士吉田市に次いで織物産業が盛んな町。昭和49年、西桂織物工業組合の青年組織として設立されたのが「糸の音」です。「糸の音」というブランド名で、国内最大級の展示会「ジャパンクリエーション」へ出展したり、新製品開発のための勉強会を定期的に行ったりしています。

展示会では「西桂の製品を広く知ってもらおう」とともに、他の産地の人と知り合って視野を広げていきます」と糸の音会長の井上秀樹さん。今後は糸の音ブランド製品



優しい手触りの生地が多い糸の音の製品

いとね
糸の音 Ito no Ne 糸の音

問い合わせ先
 糸の音
 TEL 0555-25-2406

糸の音

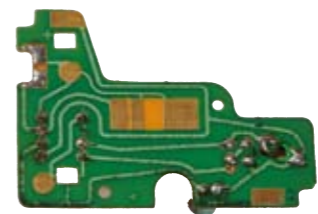
糸の音会長の
 井上秀樹さん



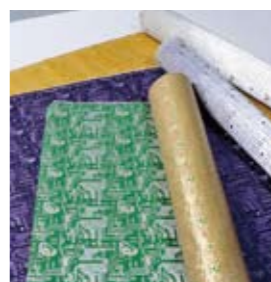
学生と機屋の 斬新な織物製品を開発

基板模様のパソコンケースを作りたい
高須賀活良さん

座布団などの金欄織物が得意
田辺織物



本物の基板にそっくりの生地が出来上がりました。(下は本物の基板)



さまざまな色のパターンを試作し、緑とダークグレーの生地でケースを作ることにしました。

「田辺織物さんが得意とする金欄の技術を使って、今風の物を作ってみたいと考えました。金欄は金糸や銀糸を使った織物のことで、仏前用の座布団などに多く用いられています。金

属から連想したのが、パソコンなどに使われている基板です。基板のデジタルな感じを、伝統の金欄の技術で表現できたら面白いな」と(高須賀活良さん)

「金欄＝仏間」という固定されたイメージから脱却できる、面白いアイデアですね(田辺織物・田辺丈人さん)

出来上がったパソコンケースは商品化し販売していきたいと、二人は意欲的です。



高須賀活良さんと田辺織物の田辺丈人さん

ネイティブアメリカン柄のドレスを作りたい
渡辺絵美さん

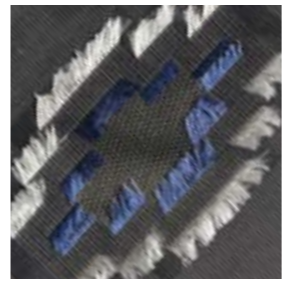
高級ドレス生地を手掛ける宮下織物

「柄のデザインは、ネイティブアメリカンの織物に用いられる幾何学模様を参考にしました。最近カジュアルファッションで流行しており、ドレスなどの高級な生地に落とし込めたら面白いと思いました。糸や織り方を試行錯誤して、イメージ通りの生地ができました(渡辺絵美さん)

「出来上がった生地を、うちの



宮下織物の宮下靖英さんと渡辺絵美さん



ネイティブアメリカンの幾何学模様を取り入れたデザイン

版画風のデザインを
ほぐし織りで表現
井野若菜さん

伝統のほぐし織りを受け継ぐ
舟久保織物

「ほぐし織りの特徴である紺調の鮮やかな絵柄と格調高い風合いを生かし、傘とストールの図柄を作りました。テーマは『雨と風景』。版画風の表現を取り入れて、どこか懐かしさを感じられるようなデザインにしました(井野若菜さん)

「ほぐし織りは先に経糸だけに絵

「雨と風景」を版画風にデザインした、ほぐし織りのストール



版画風の図柄を、紺調の格調高い風合いが出るほぐし織りで表現

「風合いに気を配った」という生地はシルクとポリエステル(こうしょく)



客さんに見せると評判がいい。出展した上海の見本市でも、商談に向けた問い合わせが数件ありました(宮下織物・宮下靖英さん)

今回はほとんど自分で織機を動かしているという渡辺さん。ウエディングドレスにもチャレンジしています。



舟久保織物の舟久保勝さんと井野若菜さん

柄を染めてから織り上げる技法で、深みのある色合いを表現できます。井野さんの版画風の図柄は、こんな発想もあるのかと新鮮に感じました(舟久保織物・舟久保勝さん)

今後二人は、3月の産地織物展に向けて、ほぐし織りを駆使した生地や、傘とストールを仕上げていきます。

山梨産地の織物製品は こちらで展示・販売しています



郡内地域地場産業振興センターでは、ネクタイ、ストール、傘、雑貨など、山梨産地で作られた織物製品を一堂に集め展示・販売しています。

さらに、3月からは、富士山テキスタイルプロジェクトで開発した製品などを紹介する「産地織物展」を開催します。山梨産地から発信する新たな製品をぜひご覧ください。



お問い合わせ

郡内地域地場産業振興センター
営業時間：9時～17時
休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
住所：富士吉田市上吉田2277-3
TEL 0555-24-4406
郡内地場産センター

